

令和2年度（2020年度）予算編成方針

令和元年12月3日

荅北町長 田嶋章二

1. 日本経済の現状と国・県の動向

日本経済の状況は、内閣府がまとめた11月の月例経済報告において、「景気は輸出を中心に弱さが長引いているものの、緩やかに回復している。先行きについては、当面、弱さが残るものの、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される」一方で、留意すべき事項として、「通商問題を巡る緊張、中国経済の先行き、英国のEU離脱の行方等の海外経済の動向や金融資本市場の変動の影響に加え、消費税率引上げ後の消費者マインドの動向」が挙げられている。

このような中、政府は、「経済財政運営と改革の基本方針2019」、「成長戦略実行計画」等に基づき潜在成長率の引き上げによる成長力の強化に取り組むとともに、成長と分配の好循環の拡大を目指すとし、誰もが活躍でき、安心して暮らせる社会づくりのため、全世代型社会保障を実現するとしている。

また、消費税率引き上げ後の経済動向を引き続き注視するとともに、相次ぐ自然災害による被災者の生活・生業の再建と復旧・復興の取り組み、さらに、近年の自然災害を教訓とし、災害に強くてしなやかな国づくりを進めるため、「防災・減災、国土強靱化のための3ヵ年緊急対策」を実施し、防災・減災対策、国土強靱化への取り組みを加速させるとしている。

その他、政府は「2020年度地方創生関係予算概要」の中で、新たな視点として、定住には至らないが兼業などで地域に関わる「関係人口」の創出・拡大、「Society5.0」の実現に向けた情報通信技術（ICT）など先端技術の活用、NPOや企業といった民間との協働などの取り組みが示されている。来年度から始まる「地方創生第2期」において、地方へのひと・資金の流れを強化する方針を踏まえつつ、今後の国の動向について注視していく必要がある。

熊本県においては、平成28年熊本地震から3年半が経過し、「熊本復旧・復興4ヵ年戦略」に基づき復旧・復興に取り組んできたが、いまだ8千人を超える方が仮設住宅に入居している現状であり、令和2年度においても引き続き真に必要な復旧・復興に取り組んでいくこととしている。また、その他の令和

2年度予算編成の重点事項として、人口減少問題への対応、地方創生への取り組み、高度情報化社会への対応など、熊本の更なる発展につながる必要不可欠な取り組みを示している。さらに、国の「防災・減災、国土強靱化のための3ヵ年緊急対策」に基づく防災・減災、国土強靱化関連事業に取り組むとしている。しかし、財政見通しについては、熊本地震関連事業の県債償還が本格的に始まることから、引き続き財政健全化に取り組み、これまで以上に将来負担を意識し更なる歳出抑制や歳入増加策を講じて、財源確保に努める必要があるとしている。

2. 本町の財政状況と令和2年度（2020年度）予算編成

本町の財政状況について、平成30年度決算では、単年度収支は△9,281千円の赤字であり、基金とりくずし額を差し引いた実質単年度収支は△79,226千円の赤字であった。依存財源では、地方消費税交付金は4,741千円増加し、地方交付税も前年から90,118千円増加しているが、自主財源である地方税は九州電力（株）苓北発電所の固定資産税の減少が大きく、歳入全体では△319,866千円の減少であった。一方、歳出面では、増加の一途をたどる社会保障経費、公共施設等の維持管理費、現在ピークを迎えている公債費の増加などにより非常に厳しい財政運営が続いている状況にある。また、歳出全体では前年から△311,435千円減少しているが、近年、基金を取り崩す状況が続いている中で、引き続き歳出全体において事務事業の徹底した見直し及び地方債の借入抑制により、一層の経費の抑制に努めなければならない状況にある。

このような状況を踏まえ、第7次苓北町振興計画では、地方債残高（一般会計）を令和10年度までに58億円まで圧縮する目標（平成30年度決算における地方債残高約75億円）を掲げている。令和2年度の予算編成では別紙「予算編成要領」に基づき、「安心して住めるれいほく」「いきいきと暮らせるれいほく」「ふるさとと呼べるれいほく」の三つの目標達成に向け、第1期地方版総合戦略である「まち・ひと・しごと創生総合戦略」から、本年度新たに策定する「第2期地方版総合戦略」と「事業計画」との整合性を図った事業に重点化を図り、歳入面では町有財産の売却を含む有効活用、ふるさと納税制度の更なる拡充など、財源確保に努めることとする。また、歳出面では、住民への説明責任を果たすことができる行政サービスの効率化と簡素化により歳出抑制を図り、最小の経費で最大の効果を発揮できるよう、自立性、創造性をもった予算編成に努める。